

1 この科目の構成について

教科	商業	科目	ビジネス実践	単位	3	単位
対象コース	情報ビジネス	コース	対象クラス	3年	5組	
使用教科書						
使用副教材	反復式「原価計算問題集」実教出版					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- 1) ビジネス計算
- 2) 日商簿記3級レベルの理解
- 3) 原価計算とは

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業で学んだものをしっかりと理解し、授業に集中して取り組む必要がある。わからないことを

(2) 家庭

全国商業高等学校協会主催 ビジネス計算実務検定1級

日本商工会議所主催 簿記検定3級

検定試験・考査の範囲については家庭での予習・復習が必要である。

3 この科目の評価方法について

評価方法：何をを使って評価するのか

- 1) 定期考査を5回実施
- 2) 授業に臨む姿勢(興味、関心、意欲)・・・授業態度、課題の提出状況等

評価における定期考査の割合

60 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

ビジネス計算に関心を持ち、その問題を解くために知識と技術の習得をめざして意欲的に取り組む。

(2) 思考・判断

いろいろの計算法について、なぜそのような考え方をするのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につける。

(3) 技能・表現

ビジネス計算における基礎的・基本的な技術を身につけ、いろいろの場面において適切な処理をする。適切・適正な会計処理ができる。

(4) 知識・理解

ビジネス計算における基礎的・基本的な知識を身につけ、理解しいろいろの場面で活用できるようにする。簿記の基本的なしくみを理解し、簿記的感性で社会を見つめてほしい。

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK		
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×		
4	4	1) 複利の計算	1) 複利終価、端数期間あり 2) 複利現価、真割引	●	●	●	●			
		2) 複利年金の計算	1) 期首払い・期末払いの年金終価 2) 期首払い・期末払いの年金現価	●	●	●	●			
		3) 年賦金の計算	1) 年賦金の計算 2) 年賦償還表の作成	●	●	●	●			
		4) 積立金の計算	1) 積立金を求める計算 2) 積立金表の作成	●	●	●	●			
	5	5	5) 売買・損益の計算	1) 代価を求める計算 2) 建値の計算 3) 原価から実売価、実売価から定価を 4) 利益額・値引額から原価を求める計算 5) 利益率・値引率から原価を求める計算 6) 利益率・値引率を求める計算 7) 分割販売による実売価の総額を求める	●	●	●		●	
			6) 手形割引の計算	1) 割引料・手取金を求める計算（その1） 2) 割引料・手取金を求める計算（その2）	●	●	●		●	
			6	7) 仲立人の手数料の計算	1) 売り主の手取金を求める計算 2) 買い主の支払総額を求める計算 3) 仲立人の手数料合計・手数料率の計算	●	●		●	●
	8) 単利の計算				1) 利息を求める計算 2) 元利合計を求める計算 3) 元金を元利合計から求める計算 4) 利率を求める計算 5) 期間を求める問題 6) 積数法によって利息合計を求める計算 7) 積数法によって元利合計を求める計算	●	●		●	●
					9) 減価償却費の計算	1) 定額法による減価償却計算表の作成 2) 定率法による減価償却計算表の作成	●		●	●
			10) 証券投資の計算	1) 利付債券の計算 2) 単利最終利回り		●	●		●	●
				11) 株式の計算	1) 株式の買入代金 2) 株式の売渡代金 3) 株式の利回り 4) 指値の計算	●	●		●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
	7	12) 1)～11) の総合演習	1) 総合問題の演習 2) 普通計算（乗算、除算、見取算）練習	●	●	●	●	
	8	13) 日商簿記3級仕訳	1) 期中取引の仕訳 売掛金の貸倒れ 固定資産の購入、売却など	●	●	●	●	
	9			●	●	●	●	
		14) 勘定記入	1) 経過勘定（利息ほか） 2) 固定資産	●	●	●	●	
	10	15) 空欄補充、補助簿の選	1) 売掛金元帳、買掛金元帳、商品有高帳 2) 空欄補充問題	●	●	●	●	
				●	●	●	●	
	11	16) 決算問題	1) 財務諸表の作成 2) 精算表の作成 3) 決算整理後残高試算表の作成	●	●	●	●	
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	
	12	17) 総合問題演習	1) 日商簿記3級を総合的に演習	●	●	●	●	
	1	18) ビジネスでの常識とは	1) 電話のかけ方、受け方 2) ビジネス文書の作成 3) 祝儀・不祝儀袋の使い方 4) 入室案内の仕方、座席の序列	●	●	●	●	
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	
				●	●	●	●	

1 この科目の構成について

教科	情報	科目	ビジネス情報	単位	4	単位	
対象コース	情報ビジネス	コース	対象クラス	3	年	5	組
使用教科書							
使用副教材	全商ビジネス文書検定模擬問題集 1・2級編 情報処理検定試験(データベース)模擬問題集 1・2級編 自主教材 (ネットワーク上にある指示ファイル)						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

<p>学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか</p> <p>ビジネス情報では、情報処理の専門的な知識と技能について、ワードを通してさらに理解を深めて下さい。また、情報発信の方法とその問題点について理解を深め、情報化が及ぼす影響について考えて下さい。</p>
<p>学習内容：この科目で学習する大まかな内容</p> <p>(1) ビジネス①→ ワードを使用し、全商ビジネス文書実務検定1級の学習をします。 (2) ビジネス②→ 進度別に個々に学習します。 (3) ビジネス③→ チームを組み、教えあい学習をします。 (4) マルチメディア実習→ 音楽作成ソフトを使って、曲を作成します。 (5) 情報発信→ Webページについて学びます。卒業記念として3年間の思い出をまとめたページを作成します。</p> <p>家庭にパソコンがないところもあるので、家庭での学習はなかなかできないと思います。聞く時間、作業する時間をわけて授業を行います。とにかく授業に集中してください。また、板書は大事な部分しか書きませんので、メモを取るように心がけましょう。</p>

3 この科目の評価方法について

<p>評価方法：何を使って評価するのか</p> <p>(1) 定期考査→第2回考査・第4回考査を行います。授業で行った内容から出題しますが、情報メディアと合併での出題となります (2) 授業中での課題→授業中に課題を提示します。(ファイルを提出、印刷して提出)</p>
<p>評価における定期考査の割合</p> <p>30 %</p>

4 この科目の評価の観点について

<p>評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか</p> <p>(1) 関心・意欲・態度 課題や作業への取り組みが積極的であり、授業内容を進んで理解しようとしたかを見ます。課題の提出状況と内容も見ます。 (2) 思考・判断 課題に対しどのソフトを使うか、どうやって行うかを見ます。また、トラブル時の対処方法について見ます。 (3) 技能・表現 課題の意味を理解した内容をどのように表現していくかを見ます。 (4) 知識・理解 小テスト、定期考査、課題の完成度、表現方法を見ます。</p>

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	○10分計測を行う(毎時間) ビジネス文書作成技能を習得する。	1年間を通して10分計測を行い、タッチ・メソッドの技術を習得する。日本情報処理検定試験の例題を用いて、ビジネス文書作成(Word)について学び、応用操作を学ぶ ①ビジネス文書の特徴について学びます。 ②文書作成ソフトの特徴について学びます。 ③Wordの使い方について学びます。	●	●	●	●	
	2	7	・確認テストを実施 第2回考査 ○日本情報処理検定(DB)1級受検 ○日本情報処理検定(表計算)作成技能を習得する。	定期的な、検定合格に向けての小テストを実施する。今までの総復習をかねて、考査を行います。 全商ビジネス文書検定試験の例題を用いて、文書作成ソフト(Word)について学ぶ。 全商情報処理試験や、日本情報処理検定試験で学んだことを復習しながらグラフの作り方などを振り返りながら学習する。 日本情報処理検定試験(表計算 1級)、で学習したことを活用できるので、振り返りながら学習する。	●	●	●	●
2	9	日本情報処理検定試験(表計算 1級)	今まで学習してきた知識がどれだけ定着したかを検定を通して確認する。				●	●
	10	第4回考査 ホームページ作成 (11月下旬3年生終了まで)	情報メディアと連携し、基礎から応用技術まで学んでいく。この学習に用いる教材として、インターネット教材を使い生徒ひとり一人の能力に応じて学習を進ませることが可能となる。				●	●
3	11							
	12	完成披露会	製作したホームページを、生徒同士で評価をしてもらう。					
3	1	3年間の振り返り		●	●	●		
	2							

1 この科目の構成について

教科	情報	科目	情報メディア	単位	4	単位
対象コース	情報ビジネス	コース	対象クラス	3年	5組	
使用教科書						
使用副教材	情報処理検定試験(データベース)模擬問題集1・2級編 情報処理検定試験(データベース)模擬問題集3・4級編 自主教材(ネットワーク上にある指示ファイル)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標 ：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 情報メディアでは、情報処理の専門的な知識と技能について、データベースソフトウェアを通してさらに理解を深めて下さい。また、情報発信の方法とその問題点について理解を深め、情報化が及ぼす影響について考えて下さい。
学習内容 ：この科目で学習する大まかな内容 (1) データベース①→ 表計算ソフトとデータベースソフトの違いについて学びます。 (2) データベース②→ 日検情報処理検定を題材として、データベースの理解を深めてもらいます。 (3) データベース③→ チームを組み、データベースを作成します。 (4) マルチメディア実習→ 音楽作成ソフトを使って、曲を作成します。 (5) 情報発信→ Webページについて学びます。卒業記念として3年間の思い出をまとめたページを作成します。 家庭にパソコンがないところもあるので、家庭での学習はなかなかできないと思います。聞く時間、作業する時間をわけて授業を行います。とにかく授業に集中してください。また、板書は大事な部分しか書きませんので、メモを取るように心がけましょう。

3 この科目の評価方法について

評価方法 ：何を使って評価するのか (1) 定期考査→第2回考査・第4回考査を行います。授業で行った内容から出題しますが、情報メディアと合併での出題となります (2) 授業中での課題→授業中に課題を提示します。(ファイルを提出、印刷して提出)
評価における定期考査の割合 30 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点 ：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか (1) 関心・意欲・態度 課題や作業への取り組みが積極的であり、授業内容を進んで理解しようとしたかを見ます。課題の提出状況と内容も見ます。 (2) 思考・判断 課題に対しどのソフトを使うか、どうやって行うかを見ます。また、トラブル時の対処方法について見ます。 (3) 技能・表現 課題の意味を理解した内容をどのように表現していくかを見ます。 (4) 知識・理解 小テスト、定期考査、課題の完成度、表現方法を見ます。

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	○10分計測を行う(毎時間) データベース作成技能を習得する。	1年間を通して10分計測を行い、タッチ・メソッドの技術を習得する。日本情報処理検定試験の例題を用いて、データベースソフト(Access)について学び、応用操作を学ぶ ①データベースの特徴について学びます。 ②データベースソフトの特徴について学びます。 ③Accessの使い方について学びます。	●	●	●	●	
	7	・確認テストを実施 第2回考査 ○日本情報処理検定(DB)1級受検 ○日本情報処理検定(表計算)作成技能を習得する。	定期的に、検定合格に向けての小テストを実施する。今までの総復習をかねて、考査を行います。 日本情報処理検定試験の例題を用いて、表計算ソフト(Excel)について学ぶ。 全勝情報処理試験や、日本情報処理検定試験で学んだことを復習しながらグラフの作り方などを振り返りながら学習する。 日本情報処理検定試験(表計算 1級)、データベースで学習したことを活用できるので、振り返りながら学習する。	●	●	●	●	
2	9							
	10	日本情報処理検定試験(表計算 1級) 第4回考査 ホームページ作成 (11月下旬3年生終了まで)	今まで学習してきた知識がどれだけ定着したかを検定を通して確認する。 情報メディアと連携し、基礎から応用技術まで学んでいく。 この学習に用いる教材として、インターネット教材を使い生徒ひとり一人の能力に応じて学習を進ませていくことが可能となる。			●	●	
3	11							
	12	完成披露会	製作したホームページを、生徒同士で評価をもらう。	●	●	●		
	1	3年間の振り返り						
	2							